

NII News

No.17

July 2003

平成15年7月

国立情報学研究所ニュース 第17号

「グリッド研究開発推進拠点(NAREGI)」 の開所式及び記念講演会等の開催

国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/JAPAN)の開始

- 4 研究活動 グラフ的アプローチに基づく知識の抽出と適用 和英著者キーワード対からの類語辞書自動構築の試み / NII情報学オープンフォーラムの開催 / NII情報学オープンフォーラム第1回(4月23日) インタラクティブ知能によるサービスロボットの実現 アクティブコンテンツ
モバイルエージェントによるコンテンツ流通 / 海外便り / NetCommons100本プロジェクト
- 7 大学院教育 大学院生紹介
- 7 トピックス 平成15年度 軽井沢土曜懇話会(5月31日・6月14日) / タイ国チュラロンコン大学関係者が来訪 / 平成15年度国立情報学研究所オープンハウス(一般公開)の開催 / 受賞・表彰



「グリッド研究開発推進拠点(NAREGI)」 の開所式及び記念講演会等の開催

開所式



NAREGI開所式で式辞を述べる末松所長

7月1日(火)、学士会館において「グリッド研究開発推進拠点(NAREGI)」の開所式、記念講演会、内覧会及び祝賀会が開催されました。

我が国の情報通信分野での国際競争力強化のため、新世代コンピューティングシステム環境の実現をめざす「超高速コンピュータ網形成プロジェクト(ナショナルリサーチグリッド・イニシアチブ:通称NAREGI「ナレギ」)」が国立情報学研究所を中核拠点として平成15年4月から5カ年の計画で開始されることになりました。これに伴い、本プロジェクトの研究開発の拠点として、国立情報学研究所にも程近い神保町三井ビルディング14階に「グリッド研究開発推進拠点(NAREGI)」を設置したことを記念して執り行われたものです。

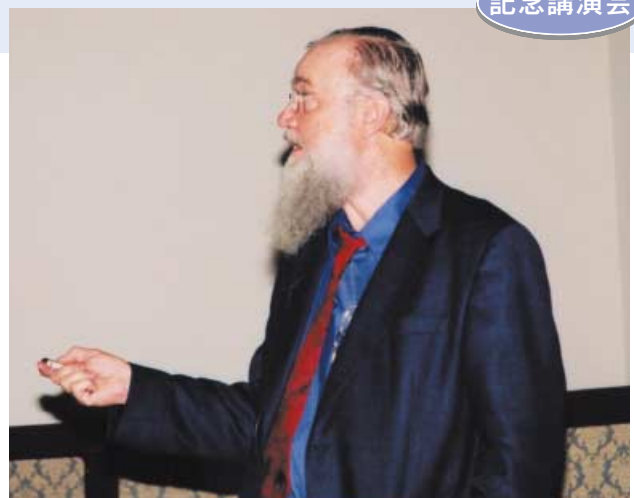
学士会館で行われた開所式には、文部科学省、経済産業省、内閣府、企業、研究機関及び本プロジェクトの関係者など約140名が参列しました。

開所式では、末松国立情報学研究所長からの式辞の後、石川文部科学省研究振興局長及び藤崎富士通(株)取締役CTOより「超高速コンピュータ網形成プロジェクト」への期待を寄せた挨拶がありました。引き続きプロジェクトリーダーである三浦客員教授から本プロジェクトの目的、研究開発の計画、体制及び研究テーマ等の紹介が行われました。

記念講演会



NAREGI開所式で挨拶する石川文部科学省研究振興局長



NAREGI記念講演会で講演するウィリアム・E・ジョンソン博士



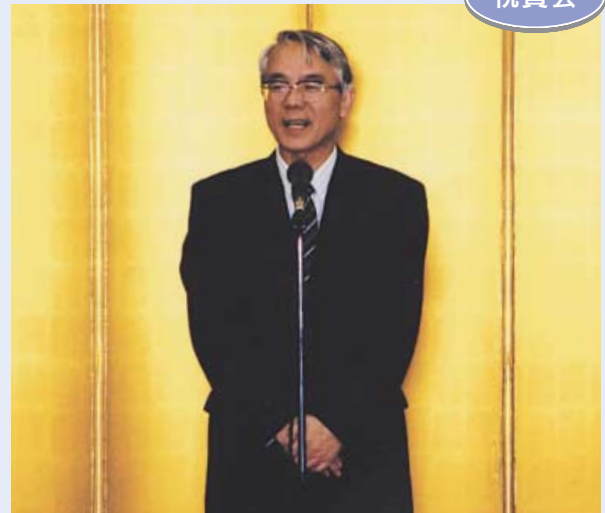
NAREGI開所式で挨拶する
藤崎富士通(株)取締役CTO



内覧会

NAREGI内覧会にて
左から坂内副所長、
明野文部科学省研究振興局情報課長、
三浦NAREGIプロジェクトリーダー、
末松所長

祝賀会



NAREGI祝賀会で挨拶する中村(株)日立製作所研究開発本部長

その後休憩をはさみ、グリッドコンピューティング研究で著名なNASAインフォメーション・パワーグリッド・プログラムリーダーのウィリアム・E・ジョンソン博士を迎え、「Computing and Data Grids for Science and Engineering」のタイトルで科学技術におけるグリッドコンピューティングの現状について記念講演が行われました。

この開所式・記念講演会には報道関係者も多数出席し、本プロジェクトへの関心の高さ・期待の大きさを感ぜさせました。

続いて「グリッド研究開発推進拠点(NAREGI)」において内覧会を行った後、関係者による祝賀会を開催しました。

なお本プロジェクトの詳細等については、ホームページ(URL <http://www.naregi.org/>)で公開しておりますのでご覧ください。

(企画調整課)

本プロジェクトのロゴマークは、ユーゴスラビア国にあるSerbian Academy of Sciences and Artsの中のMathematical InstituteのSlavik V. Jablam教授の圖案をベースとしたもので、使用に際して同教授の許可を得ております。

国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC/JAPAN)の開始

国立情報学研究所は日本発の優れた英文論文誌を国際的に認知させることを目的として、国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/JAPAN)を開始しました。本事業では、日本の電子ジャーナルの多くを海外に向けて公開するプラットフォームとしてのJ-STAGEを擁する科学技術振興事業団、学術雑誌の購読側である大学図書館と連携し事業を進めます。

欧米では大手商業出版社による学術雑誌流通の寡占化に対抗して、大学図書館を中心にしてSPARC(Scholarly

Publishing and Academic Resources Coalition)という組織が創設され、学術情報の流通を研究者自身が行う活動が始まっていますが、本事業では、これら欧米の大学図書館とも連携を図り、国際的な学術情報の流通をめざします。

具体的には、英文論文誌を発行する日本の学協会の中から公募によって、本事業に参画する強い意欲を持った学協会を選定し、その学協会と国立情報学研究所とが協同し、科学技術振興事業団等と連携しながら当該英文論文誌の国際化、

電子化を図り、海外での認知度の向上をめざした支援事業を実施します。特に、電子ジャーナルの流通に関しては、冊子体の価格モデルから電子ジャーナルの価格モデルへの移行が焦眉の課題であり、有効なビジネスモデルの創出をめざします。

支援内容は右の通りであり、対象となる学協会等によって、適合した支援策を組み合わせつつ行います。

SPARC/JAPANの活動

- (1) 編集工程の電子化支援
- (2) 英文論文誌の国際化支援
- (3) ビジネスモデル創出事業
- (4) 国際連携の推進
- (5) 調査・啓発事業



第一回評議会：
右から末松副会長、豊島委員、野依会長、丸山委員、光岡委員

7月2日(水)には、学協会等を対象に、国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/JAPAN)説明会を開催し、研究所より事業概要と公募に関する説明を行いました。約130学協会の参加を受けました。本事業内容に対する学協会等の関心はきわめて高く、盛会となりました。

なお、本事業に参画する英文論文誌の公募は、下のようになっています。詳細は、SPARC/JAPANホームページ(URL <http://www.nii.ac.jp/sparc/>)でご確認ください。

参画英文論文誌の公募

応募方法：所定の様式で事業への参加提案書を提出してください。

選考方法：国際学術情報流通基盤整備事業評議会の審議を経て選考します。

応募締切：平成15年9月3日(水)

結果発表：平成15年9月中下旬

6月25日(水)に、第一回国際学術情報流通基盤整備事業評議会が開催されました。国際学術情報流通基盤整備事業評議会は、事業計画を策定するBoardにあたり、野依良治会長を始めとした学界を代表する研究者を委員に迎えています。初回である今回は、事業の全体計画等について委員の活発な審議が行われ、自国の発信メディアをもつことの重要性が確認されました。



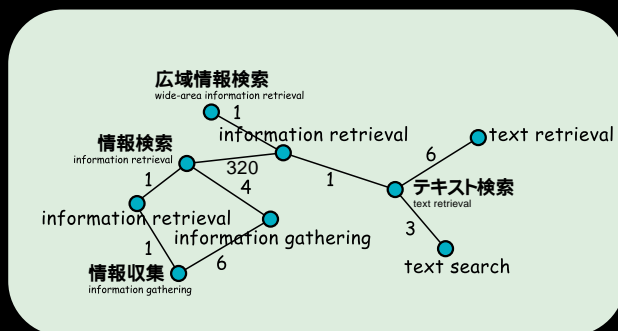
第一回評議会：右から西郷東京大学附属図書館長補佐(小宮山委員代理)、紙屋委員、沖村委員、大崎委員、石井委員、末松副会長、野依会長



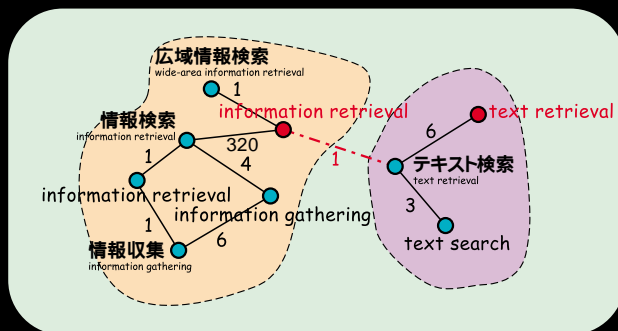
国際学術情報流通基盤整備事業説明会

グラフ的アプローチに基づく知識の抽出と適用 和英著者キーワード対からの類語辞書自動構築の試み

類語クラスタ生成の様子



和英対訳のリンクを使って語のネットワークを作る。



結びつきの弱いところを切断して語をグループ化する。

題を含んでいます。まず、このようにして生成した類語辞書を使うと、「テレビ会議」と検索エンジンに入力しただけで、「遠隔会議」を自動的に検索語に追加したり、「teleconference」を含む英語の文書を探し出したりすることが可能になります。このような「横断検索」への適用は、類語辞書の活用法を探る上で重要な研究です。また、論文の和英著者キーワードは辞書構築の資源として大変優れたものですが、汎用性を高めるためには、通常対訳文から質のよい対訳語ペアを自動的に獲得する方法の検討も必要になります。さらに、「ATM」が「非同期転送モード (Asynchronous Transfer Mode)」を指したり「自動入金機 (Automatic Teller Machine)」を指したりするといった多義語の扱い、「テレビ会議」なら「テレビ」+「会議」という構成語に注目した処理も必要になります。

お互いに意味が似ている言葉を集めた類語辞書は、コミュニティや言語の違いを越えた情報交換を可能にする、価値のある言語的資源です。たとえば「テレビ会議」という用語。今では広く普及するITキーワードですが、この「テレビ会議」には別の言い方がたくさんあります。通信会議、電子会議、TV会議、遠隔会議、ビデオ会議、画像会議、テレコンファレンス…。英語ならば teleconference, video conference, electronic meeting, remote conference…。いずれも類似する用語ですが、端末に向かった利用者が記憶を頼りに数え上げるのは大変です。

そこで私たちの研究では、一般の辞書には出ていない、「テレビ会議」のような専門的・先端的キーワードに注目して、類語辞書を自動構築するための方法を検討しました。具体的には、学術文献に付与された和・英の著者キーワードの対訳関係に注目して、「共通の対訳を持つ用語どうしは意味的に類似している」という仮定のもとに、類語のグループを生成します。ただし実際のデータには、誤訳が含まれたり、複数の意味を持つ「多義語」が存在したりするために、上記の「共通の対訳=類義」の仮定はつねに成立するわけではありません。このため、簡単な統計処理と「最小辺カット検出アルゴリズム」というグラフのアルゴリズムを組み合わせることで問題となりそうな対訳関係を取り除き、辞書をきれいに行きます。

類語辞書の構築は自然言語処理にかかわる多くの研究課

現在、情報検索の評価用文書コレクションであるNTCIR-1&2(URL <http://research.nii.ac.jp/ntcir/>)を使って機械的に生成した類語辞書(項目数約40万)のオンラインデモを、実験的に以下の URL で公開しています。

URL <http://mic.ex.nii.ac.jp/dict/>

(情報学資源研究センター資源構築利用推進室 教授 相澤 彰子)



ï»â«Äÿ Òœót"±"ïméØ¿ Äwîq

4FSWJDF 3PCPU 3FBMJ[BUJPO CZ *OUFSBDUJV

œó³µÄÜZ€%
éØÄÿ «µZ€æó l»-\$
GUG¶G¶Ä»¶Z€J-\$

(a y ' ì

ç ``My''KV £

- âzf~G¶G¶Ä\$œ] .f{
 - âz? U[ïùZ€töt{ \w
 - âzÜ±½â"·¿Ä»JG¶ »œóZ€
 - tI»Z€»{ â·qOzGUG¶-\$ {
 - â·qOz qØC¶Z€tI»-\$ { -
- ïĐá»ïãiqœééØ¿ ÄwZ€tHÄ{

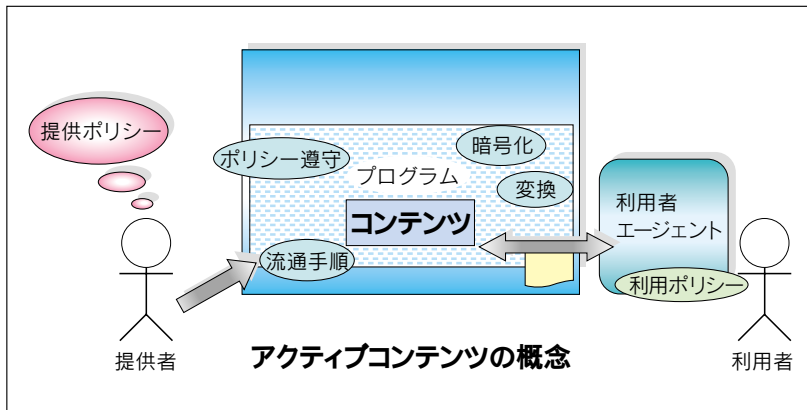
;ó>qw ï»â«ä ït'
loïqb"\ qpK" f·p<z
s",Xâ"²wÛr'n'bh
Šzx^ppV"æü>GVX `z
`T<â"²qw ï»â«ä
>7ÿvtq rŠ"lqpK" f
whŠtz Ž<w'Os »É`
oM" {
0 ÄwþÄçxzwM²T'
_o<ÝÝpV"OtG\
b" {

y†cz wÝÝt`oz ó:w^MoM" T'>w
>!ÓÄÿ §çÑé"»b;`oâ{b"MOz =í) %o
óv T'ó:w w%>ÝÝb"MOz S¶X!
w ÝÝq éÝÝ·w&;w¼^>°p`h{
yŽí) q `oz Ě·sr>4·b"éØ¿ ÄwhŠw
MO>°p`h{ é.\$txz ^ZsM whŠtz T†·h
<w>ĚloX"éØ¿ Ä)Ý b" { \wÔùxz â"²Ué
Ø¿Ä·Z"q ¶pV" { \pw>Äxz žAs ¥ÝÝ

°ìÚEw!=t& b"hŠz °ìÚE>x^\$t{
Šoí!ð>b" {
ÝÝALwÆ-T^t ao0éw°0 >!Qz â"²q
xµs0é>æso{
;`ÝÝxzHRwâ"² [w Ot,nXMOiZ
psXz Otù·`sMÔùp<z Ý-z²™ z C;
w"ÄQsrT'o >* `oâ"²tðùd" {
yŽí)ïãiq;`w«>!Qo†ìh{

y : â™ wÉ¿Äë"«pqtS
Moxz žÄx¿ «É¿ Äë"«z Áç
!#z Ôô É ¿Äë"« »;Moz
Mmp<rlp< wÝ-t
aoz x t-ïÄïÄ)ù!ôp
V'¥UTQpK- Q{fwALz
ïÄÿÛï Ä-Úç½ÝÄÿ ž ô
iZpsXz fwÔv"w-ïÄï
Ä!ð<]œts"z ·Ôt>ð
~cz m<UK"·ÔtT'w-
ïÄïÄC ô>æO Qts'q'
ÝpV" { `T`z qÝpxz\·

の状況下でコンテンツを製作者・提供者の意図や利用者の意思、状態、利用状況に応じて適切にコンテンツを利用するには至っていない。そのため、このままではコンテンツが無秩序に氾濫することになる。この問題を解決するために、コンテンツの提供者の意図を汲んで、コンテンツ自身が流通を制御できる仕組みを提案した。具体的には、コンテンツをエージェント化し、そのエージェントが提供ポリシーを遵守することで、その流通を制御する。ここで、エージェント化したコンテンツをアクティブコンテンツと呼ぶ。さらに、アクティブコンテンツをモバイルエージェントによって実装し、エージェントの移動により流通を定義する。このように、コンテンツをエー



ジェント化することで、自律的な振る舞いが可能となり、ポリシーの範囲内での自由で柔軟な流通が行えるようになる。

海外便り

LORIA研究所にて

私は平成14年10月1日から約7ヶ月の間、フランスの都市 NancyにあるLORIA研究所に非常勤研究員として留学してきました。研究所ではRomary教授のもとで、日、仏、英に関する理論的な専門用語の抽出手法ならびに語構成の研究を行いました。留学してもっとも驚いたことは、研究コミュニティのあり方です。ヨーロッパとアメリカは日本とは地球の反対側で近く、小さな研究会でも著名な研究者の交流が日本に比べて盛んであるという点でした。しかし逆に言えば欧米とは異なった発想で研究を進めるには良い距離感なのではないかと思いました。

(人間・社会情報研究系情報管理学研究部門 助手 竹内 孔一)



NetCommons100本プロジェクト

4月23日に行われた「NetCommons 利用説明会」の様様

国立情報学研究所では、新井紀子助教授が(株)NTTデータポケットと共同開発を行った、市民のための情報共有支援システム「NetCommons」の成果を社会に普及するとともに、よりいっそうの改良を行うために、「NetCommons」の利用を希望する非営利団体等にNetCommons導入支援を行う、「NetCommons100本プロジェクト」を現在推進中である。

第一回のモニター申し込みには、慶應義塾大学メディアセンター、北陸先端科学技術大学院大学 遠隔教育研究センター、九州大学大学院薬学研究院、慈恵医科大学など、遠隔教育・情報共有のためのインフラストラクチャーとして導入を検討している大学・研究機関のほか、NPOや学会等から多数の応募があった。応募団体の多様さは、まさにNetCommonsというシステムの柔軟さと用途の広さを表しているといえる。国立情報学研究所では、選考委員会を設置した上で慎重に選考した結果、49団体(URL http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/NetCommons/NetCommons_monitor.html)を選定した。7月よりNetCommonsを配布し、共同研究を開始する。

7月31日(木)には、学術総合センタービル内、一橋記念講堂



(中会議室)において、NetCommons 導入団体、また、二次募集応募予定者に向けて「NetCommons 導入説明会」が開かれる予定である。本説明会では、NetCommonsの技術的な説明のほかに、サイトの管理運営において留意すべき法的な問題に関する講座やサーバ管理者のためのセキュリティ講座なども盛り込まれる。

(情報学基礎研究系情報数理研究部門 助教授 新井 紀子)

大学院生 紹介

張超 (Zhang Chao)

総合研究大学院大学 数物科学研究科
情報学専攻 博士後期課程学生

国立情報学研究所と清華大学の研究協力協定に基く初めての大学院生として来日できたことを感謝しています。清華大学は科学と技術の分野で最も高名な名門大学です。私は、総合研究大学院大学の博士課程の学生であると共に、清華大学大学院博士課程の大学院生でもあります。上記研究協力協定に基き、博士課程在学期間の半分の期間を国立情報学研究所で過ごすことを清華大学から許可されています。国立情報学研究所の学生用の研究諸施設が充実していることをうれしく思っています。また種々の分野の高名な先生方に指導を受けられること、更に博士論文研究の分野に於ける深い指導を受けられることをうれしく思っています。

清華大学の修士課程を修了した時、清華大学の博士課程に進学すると共に、副学長のGong Ke教授のお薦めで、総合研究大学院大学の博士課程にも入学させていただくことにな

張超氏(左)と指導教官の羽鳥教授



りました。羽鳥光俊教授の指導の下に移动通信の研究を行っており、横須賀リサーチパーク(YRP)や電気通信総合研究所(CRL)の見学に連れて行っていただきました。また東京大学、筑波大学、上智大学の高名な先生方や学生を紹介していただきました。来日して半年が過ぎ、論文(IEICE)を2つ書き上げ、特許も申請する等充実した研究生活を送っています。

国立情報学研究所には、いろいろな国からの留学生が沢山在学していることも魅力です。一緒に研究し、協力し、いろいろな国の文化を学ぶこともできます。(原文英語)

平成15年度 軽井沢土曜懇話会(5月31日・6月14日)

軽井沢の国際高等セミナーハウスにおいて5月31日(土)および6月14日(土)に平成15年度軽井沢土曜懇話会の第1回・第2回をそれぞれ開催しました。その講演の様子を紹介します。この講演の第1回については、エルネットと国立情報学研究所のホームページで公開する予定です。

(成果普及課)

第1回：5月31日(土)「新しい倫理を求めて 混迷の世に思う」

哲学国際センター所長 / 東京大学名誉教授

今道 友信氏

(いまみち とも のぶ)

講演は次のような内容を大変分かりやすい形でお話しいただき、多くの参加者より有意義な時間を過ごすことができたという感想をいただきました。

「われわれの生きている時代の混迷の実態を社会と自然と学問の三つの領域で明らかにし、その原因を明確にするとともに、それらに対する基本的対策を思索した結果をできるかぎり理解しやすい形で説明したい。

この省察は1982年以来日本で毎年開催されている国際エコエティカ*学会という私どものセンターが組織している国際共同プロジェクトの成果(既刊20巻の欧文論文集)の一端を示すものである。*eco-ethica(生圏倫理学) (当日の配布資料より)



第2回：6月14日(土)「転換期における日本の家族」

文化庁長官

河合 隼雄氏

(かわい はやお)

フルートコンサート

フルート：河合 隼雄氏

ピアノ：岡田 知子氏(ピアニスト)

ヴァイオリン：大津 純子氏(ヴァイオリニスト)

講演は次のような内容をユーモアを交えて話され、参加者に深い感銘を与えました。

「日本は今、大変な転換期を迎えている。明治以来、日本は欧米の文明を取り入れ、それを消化することに努めてきた。現在は、日本は非キリスト教国の中で、唯一、先進国に仲間入りするほど、成功を収めてきたが、これまでは、言わば“もの”のレベルでの取り入れであったが、“こころ”のレベルにまでそれが及んできて、いったいそれをどうするか、大きい課題を背負っている。

このことが、非常に端的に認められるのが、家族の問題である。日本の伝統的な考えにどこまで従うのか、欧米の考えをどこまで取り入れるのか、そのときに、その背後にある“宗教”のことをどこまで考えるのか。あるいは、欧米の考えを取り入れたつもりで、実はそれは本来の欧米の生き方とまったく異なるものになっていることもある。このような問題について、具体例をあげながら、それに即して、今後の日本の家族について、共に考えてゆきたい。」

(当日の配布資料より)



講演に引き続いて行われたすばらしいフルートコンサート(“七つの子変奏曲”、“フルートソナタへ長調 K.13”、“メロディ”、“ヴェニス の謝肉祭”、“花のワルツ”)には満員の会場から盛大な拍手がおこられました。

■ タイ国チュラロンコン大学関係者が来訪

5月15日(木)にタイ国チュラロンコン大学理学部数学・計算機科学科長のWanida Hemakul助教授ほか2名の方が本研究所を来訪されました。

本研究所は、本年3月にチュラロンコン大学と学術交流協定を締結し、今後情報学研究の分野での協力関係を緊密にしていくことで合意しており、今回の来訪はこの協定を締結して以降、最初の交流となります。

当日は、小野研究総主幹から研究所の概要説明やコンテンツ課による事業説明、図書館見学に続き、本研究所のタイ国出身の研究者や留学生との懇談会も行われました。なお、これらの行事には Kasit Piromya 駐日タイ国大使、Singtong Lapisatepun 同国大使館参事官も同席されました。

また、5月16日(金)以降は、3日間にわたってそれぞれの専門分野に係る本研究所の研究者とお会いになるなど、積極的に研究交流を進められました。



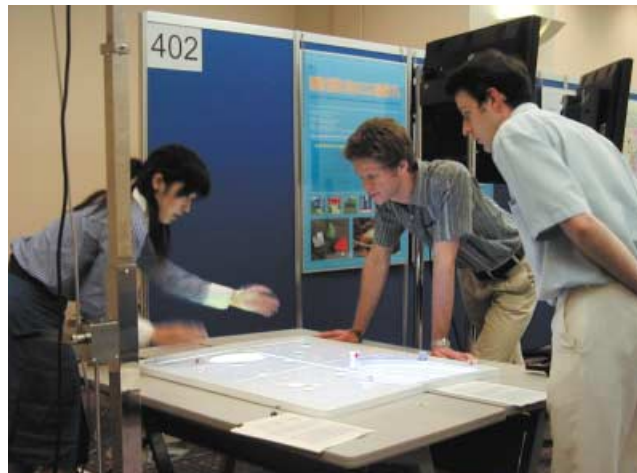
前列：図書館を見学するチュラロンコン大学研究者
後列：Kasit Piromya 駐日タイ国大使(中央)
Singtong Lapisatepun 同国大使館参事官(左から3人目)

(研究協力課)

■平成15年度国立情報学研究所オープンハウス(一般公開)の開催

国立情報学研究所では、研究所の研究活動及び研究成果を広く社会の方々に知っていただくために、5月27日(火)にオープンハウスを開催しました。会場の一橋記念講堂では、スタンフォード大学教授で、国立情報学研究所教授就任予定の山本喜久氏による特別講演及び本研究所7研究分野の教官21名による研究紹介、総合研究大学院大学(情報学専攻)の紹介が行われました。

このうち、山本教授による特別講演「量子コンピュータの最前線」は、数多くの来場者が聴講し、既存のコンピュータを凌駕する超高速で計算ができる次世代コンピュータといわれる量子コンピュータの世界的権威である山本教授の講演に熱心に聞き入っていました。



発表展示の様相(RFIDを用いたヒューマン・コンピュータ・インタラクション)



パネル展示を見学する在日各国大使館の科学参事官等一同



山本喜久教授による特別講演

講演の様相はインターネットでライブ中継を実施し、国内外から多くのアクセスがありました。

並行して、所内教官による研究内容の発表展示及び開発・事業部、国際・研究協力部による各種提供サービス、広報・出版物、イベント案内、総合研究大学院大学等の発表展示や紹介が行われ、多くの来場者が熱心に質問を寄せていました。

当日は500名を越える参加者があり、「最先端の研究内容を概観できて大変役に立った」「全部の展示を見てまわるにはもう少し時間がほしい」「さらに一般に開かれた研究公開をしてほしい」といった意見が寄せられました。また、当日の様相はいくつかのメディアやWebサイトでも報告され、本研究所ならびに情報学研究に対する社会的関心の高さをうかがわせました。

また、当日は在日各国大使館の科学参事官等、15カ国21名を招いて、国立情報学研究所の説明会を開催しました。説明会では、法人化を控えた研究所の将来構想、デジタル・シルクロード・プロジェクト及びスーパーSINETの研究活動について説明を行うとともに、ロボティクス研究の紹介として千葉分館にあるロボットの遠隔操作のデモを行いました。併せて、オープンハウスのパネル展示の見学を行いました。

なお、当日のプログラム、発表要約集等の資料について、以下のURLで公開しています。

URL <http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/OpenHouse/>

(成果普及課 / 広報調査課)

NII掲示板

人事異動

客員部門(平成15年4月1日付)

三浦 謙一 リサーチグリッド連携研究センター客員教授
本務先:富士通株式会社コンピュータ事業本部技師長
同社フェロー職

採用(平成15年6月1日付)

根本 香絵 情報基盤研究系 暗号情報研究部門助教授
前職:ウェールズ大学情報学研究员

採用(平成15年7月1日付)

山本 喜久 情報学基礎研究系
量子コンピューティング研究部門教授
前職:スタンフォード大学教授

客員部門(平成15年7月1日付)

宇佐見 仁英 リサーチグリッド連携研究センター客員教授
本務先:富士通株式会社計算科学技術センター
研究開発部部长

松井 知子 知能システム研究系 ロボティクス研究部門客員助教授
本務先:統計数理研究所統計計算開発センター助教授

平成15年度NII市民講座「8語でつかむ情報学」

- 第1回「ユビキタス社会」 : 平成15年 7月11日(金)18:30~19:35 学術総合センター 1階 特別会議室
- 第2回「デジタルライブラリ」 : 平成15年 8月25日(月)18:30~19:35 学術総合センター 1階 特別会議室
- 第3回「グリッド」 : 平成15年 9月18日(木)18:30~19:35 学術総合センター 1階 特別会議室
- 第4回「バイオインフォマティクス」 : 平成15年10月16日(木)18:30~19:35 学術総合センター12階 会議室
- 第5回「アルゴリズム」 : 平成15年11月27日(木)18:30~19:35 学術総合センター12階 会議室
- 第6回「プロトコル」 : 平成15年12月18日(木)18:30~19:35 学術総合センター 2階 中会議場
- 第7回「インタフェース」 : 平成16年 1月15日(木)18:30~19:35 学術総合センター 1階 特別会議室
- 第8回「データベース」 : 平成16年 2月26日(木)18:30~19:35 学術総合センター 1階 特別会議室

参加申込など詳細はホームページ URL http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/OpenLecture/NII_shiminkouza.html でお知らせしています。参加は無料です。皆さまの参加をお待ちしています。

平成15年度軽井沢土曜懇話会

国際高等セミナーハウス(長野県軽井沢町)を会場に開催します。

- 平成15年 9月 6日(土) 八城 政基 氏((株)新生銀行代表取締役社長)
- 平成15年 9月27日(土) 大崎 仁 氏(国立学校財務センター所長)
- 平成15年10月25日(土) 大津 純子 氏(ヴァイオリニスト)、岡田 知子 氏(ピアニスト)
- 平成15年11月 8日(土) 羽鳥 光俊 (国立情報学研究所教授/開発・事業部長)

参加申込など詳細はホームページ URL <http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/Karuizawa/> でお知らせしています。

総合研究大学院大学情報学専攻(博士後期課程)学生募集日程

【平成16年度4月入学(第2回募集)】

- 募集人数 : 6名
- 出願期間 : 平成15年12月 8日(月)~12日(金)
- 選抜期日 : 平成16年 1月26日(月)~2月13日(金)のうち1日
- 合格発表 : 平成16年 2月下旬
- 入学手続 : 平成15年 3月10日(月)~14日(金)

募集要項の詳細については URL <http://www.nii.ac.jp/daigakuin/index.html> でお知らせしています。

NTCIR-4: The 4th NTCIR Workshop: Evaluation of Information Retrieval, Text Summarization and Question Answering

情報検索、テキスト要約、質問応答などの情報アクセス技術の評価ワークショップ。参加研究グループは、共通の大規模なデータセットを用いて研究を進め、成果を共通の基盤の上で相互比較するとともに、研究者間の自由な討論や研究アイデア交換の場となることを目的とした国際ワークショップです。成果報告会および会議論文集の公用語は英語です。

- 平成15年3月31日: 文書データ配布開始
- 平成16年5月下旬: 成果報告会
- 主催: 国立情報学研究所

詳細についてはホームページ URL <http://research.nii.ac.jp/ntcir/ntcir-ws4/> でお知らせしています。

【問い合わせ】神門典子 人間・社会情報研究系助教授 Email:kando@nii.ac.jp



国立情報学研究所の研究・事業活動について詳しくはホームページもご覧ください。
<http://www.nii.ac.jp/index-j.html>